

ノーカントリー

2008(平成20)年1月24日鑑賞〈東宝試写室〉

★★★★



監督・脚本・製作＝ジョエル・コーエン／イーサン・コーエン／原作＝コーマック・マッカーシー『血と暴力の国』(扶桑社刊)／出演＝トミー・リー・ジョーンズ／ハビエル・バルデム／ジョシュ・ブローリン／ウッディ・ハレルソン／ケリー・マクドナルド／ギャレット・ディラハント／テス・ハーバー (パラマウント、ショウゲート配給／2007年アメリカ映画／122分)

……原作のタイトルは『血と暴力の国』と物騒だが、それをコーエン兄弟が映画化するとさらに暴力的に……？ 舞台は1980年代のテキサス州。偶然に大金を手にしたモス、それを追う殺し屋のシガー、そしてモスを保護しシガーを逮捕しようとするベル保安官。キャラ豊かなこの三つ巴の追跡劇は見どころタップリ。アカデミー賞作品賞、監督賞等8部門ノミネートもなるほどと思える出来だが、さて、その結末の納得度は……？



アカデミー賞作品賞、監督賞等8部門にノミネート！

第80回アカデミー賞のノミネートが1月22日に発表され、『ノーカントリー』は見事作品賞、監督賞、脚色賞等8部門にノミネートされた。私は『アメリカン・ギャングスター』(07年)や『ジェシー・ジェームズの暗殺』(07年)などに十分その可能性があると考えていたが、今日見た『ノーカントリー』を除いて、作品賞にノミネートされた①『つぐない』(07年)、②『JUNO／ジュノ』(07年)、③『フィクサー』(07年)、④『ゼア・ウィル・ビー・ブラッド』(07年)は、私がまだ観たことのない作品ばかり。やはり、ノミネート直前にアメリカで公開される作品の方が有利なのかなとちょっと思ったりしたが、さて……？

ところで、今年はアメリカの脚本家組合のストライキによってゴールデングローブ賞の授賞式が中止となったが、アカデミー賞の授賞式は、どうなることやら……？

はじめてコーエン兄弟の作品を

『ノーカントリー』は、ジョエル・コーエン（兄）とイーサン・コーエン（弟）のコーエン兄弟の監督・脚本・製作によるものだが、この映画に関するどの評論を読んでも、コーエン兄弟のこれまでの作風について述べたうえで、『ノーカントリー』は云々という語られ方をしている。ところが、私は映画評論家を自称しているにもかかわらず、残念ながらこれまで『パリ、ジュテーム』（06年）の第4話『チュイルリー』を除いてコーエン兄弟の作品を、その代表作『ファーゴ』（96年）をはじめほとんど観たことがない。

これでは映画評論家失格と言われそうだが、過去の作品を知っていれば知っていたでいいし、知らなければ知らないで『ノーカントリー』についての私なりの感性で評論を書けばいいと考えている。したがって以下、コーエン兄弟の過去の作品についてはズブの素人の映画評論家として、この作品についての私の評論を……。

原作のタイトルも恐ろしいが……

『ノーカントリー』の原作は、「アメリカ文学界の異端児」と称せられているコーマック・マッカーシーが2005年に書いた『血と暴力の国』とのことだが、そのタイトルを見ただけでも恐ろしいもの。ちなみに、ネット情報を調べると、この原作の英文と対比しながら、映画のセリフを評論しているものがあつたから、すごい人がいるもの……。2008年の今、『血と暴力の国』と聞けば、どうしても「アフガン戦争やイラク戦争をひき起こしたアメリカ」をイメージしてしまうが、この原作はそうではないらしい。たまたま、主人公(?)のルウェリン・モス(ジョシュ・ブローリン)はベトナム戦争の帰還兵という設定だが、時代は1980年代。舞台はアメリカ南部のテキサス州からメキシコ国境。そして物語は、ある日狩りをしている時、偶然死体の山と数台の車を発見したモスが、200万ドルもの大金が入ったカバンを見つけ、そのカバンを家に持ち帰ったために、以降冷酷な殺し屋アントン・シガー(ハビエル・バルデム)の執拗な追跡を受けて大変な目に遭っていくというもの。

原作のタイトルも恐ろしいが、このシガーのキャラが徹底的に恐ろしいところがこの映画の魅力……。？ ちなみに、このシガーを演じたハビエル・バルデムは見事アカデミー賞助演男優賞にノミネート。

あなたなら？

『アメリカン・ギャングスター』は、腐敗が蔓延している刑事の世界の中でラッセル・クロウ扮する真っ正直な刑事リッチー・ロバーツが容疑者の車のトランク内に100万ドルの金を発見したが、それを自分の懐に入れず申告したために、自分の立場を失ってしまうところから物語がスタートした。しかし、『ノーカントリー』の冒頭シーンのように、ある日突然、麻薬取引の犯罪現場らしきところで死体の山を発見した後、200万ドルが入ったカバンを発見したら、あなたならどうする……？ つまり、警察（保安官）に届け出る、それともその大金を自分の懐に入れてしまう、さて、あなたの選択は……？

モスの場合、たぶんあなたの選択と同じだった(?)わけだが、この映画(原作?)が面白いのは、家に帰って眠っていたモスが夜中に急に起き出し、「水が欲しい」と言っていた生き残りの男に対して水を届けてやろうと考えたこと。今さらそんなことをしても全く意味がないのでは……？ 誰でもそう思うはずだが、それがモスにとっては唯一の良心の発露……？

ところが、そんな行動によって、モスは現場に駆けつけていた怪しげな男たちによって襲撃され、命からがら逃げ帰ることに。しかし、しまった。モスが乗っていった車は現場に置いたまま。すると、この車からモスの身元はすぐに割れるのでは……？ そのうえ、200万ドルが入ったカバンにはある仕掛けが……？

テキサスはどこに？ エル・パソはどこに？

大統領選挙をめぐる、今アメリカは予備選挙の真っ最中。注目は2月5日のスーパー・チューズデーだが、こういうニュースを見ていると、アメリカ合衆国の50の州の位置関係がよく勉強できる。ちなみに、ブッシュ大統領の出身はこの映画の舞台と同じテキサス州だが、テキサス州はアメリカの最南部にあり、南はメキシコに接し、西はニューメキシコ州に接している州。この映画のプレスシートにはこのテキサス州のMAPがあるが、映画ラストの舞台となるエル・パソは、そのテキサス州の最西端にあるまち。200万ドルのカバンを持って逃走を続けるモスの行動をきちんと理解するためには、このMAPの理解が不可欠だが、そのすべてがわからないにしても、概要だけは勉強しておく必要があるのでは……。

ベテラン保安官の役割は？

この映画はモスと殺し屋シガーとの追跡劇がメインだが、そこにもう1人、ベテラン保安官が加わることになる。1980年代のアメリカにおいて、保安官がどんな役割を果たしていたのか私には全く想像がつかないが、「祖父も父もそして私も保安官だった」というナレーションから始まるこの映画では、ベテラン保安官エド・トム・ベルが重要な役割を果たしている。ちなみにこのベル保安官を演ずるトミー・リー・ジョーンズは俳優陣の序列からいくとトップになっているが、これはやはりこれまでの実績のおかげ……？

それはともかく、死体が散らばる麻薬取引の犯行現場に、部下のウェンデル副官（ギャレット・デハラント）と共に到着したベル保安官が、検査証プレートの外されたモスのトラックが残されているのを見て、モスは犯人グループではなく、事件に巻き込まれたものと判断したのはさすが。すると、以降の彼の行動方針はモスを保護しつつ、残忍な殺し屋グループの逮捕に向かうこと。しかし、そんなベル保安官たちの狙いは、強力な敵を前に果たしてどこまで実現できるのだろうか……？

殺し屋は1人だけ？ それとも……？

この映画で一番面白いキャラは、マッシュルームカットの髪型で酸素ボンベを携えながらエアガン（圧縮空気銃？）のような奇妙な武器を扱う冷酷無比な殺し屋シガー。しかし、麻薬取引には必ず売主と買主がいるはずだから、一方の勢力があれば他方の勢力があるはず。そこで登場するのが、カウボーイハットをカッコよく被ったもう1人の殺し屋カーソン・ウェルズ（ウッディ・ハレルソン）。大ケガをさせられながらシガーの攻撃を何とか逃げ延びたモスの部屋に今登場したウェルズは、「素直に金を渡せば命は助けてやる」という現実的な取引を申し出たが……。

モスとシガーとの死闘の行方は……？

シガーはもともと冷酷無比な殺し屋だが、モスは200万ドルを手にするまでは普通の善良な市民。ところが、たまたま金をもち逃げしてしまったためにシガーから追跡される羽目に陥ったもの。したがって、ケンカのテクニックや殺しの腕前については、横綱と序の口ほど大きな差があったのは当然。もっとも、それにしてはモスもよく善

戦中。とりわけ、カバンにあるものが仕掛けられていることを見抜いた後のモスのシガーとの対決ぶりは立派なもの。

しかし、ベテラン保安官ベルのアドバイスによると、シガーの次のターゲットはモスが避難させた妻のカーラ（ケリー・マクドナルド）になるとのことだが、なるほどそう言われてみれば……？ さらに別の殺し屋ウ



©2007 Paramount Vantage, A PARAMOUNT PICTURES company. All Rights Reserved.

ェルズの申し出もある意味仕方のないもの……？ モスが素直にそう考えて手を引けば良かったのかもしれないが、やはりここまでコトが進んでしまうと、途中で抜けたからといってホントに問題が解決するとは考えられないのも当然。そのため、必然的にモスとシガーの死闘は継続することになるのだが、さてその行方は……？

■ 結末の納得度は……？

「正義は勝つ」がいつの世でも通用すれば、人間は「やはり正しい生き方をしなければ……」と思うはず。しかし、残念ながら必ずしもそうはならないのが世の常。そうすると、どうしても「悪い奴ほどよく眠る」という困った状況になることも……。この映画ではベル保安官は正義の味方、シガーは逮捕され成敗されるべき悪人、そしてモスとはごく普通に生きている市民だから、ひょっとしてあなた自身……？

そんな三つ巴の追跡劇を描くについて文部科学省的な映画をつくるのなら、「正義が勝ち、悪は滅びる」というスタイルでいいのだが、まさかコーエン兄弟がそんな単純な映画をつくるはずはない……？ しかして、注目すべきはアカデミー賞作品賞、監督賞にノミネートされたこの映画の結末のつけ方。もちろん、それをここに書くことはできないから、それはあなた自身の目で確認してほしいが、さて、そんな結末の納得度は……？

2008(平成20)年1月28日記